

第 183 回ユネスコサロンの感想

第 183 回ユネスコサロンは、8月26日（土）、自主制作映画監督の出山知樹さんをお迎えし、『原爆ドームと私』というテーマで開催されました。この日は残暑厳しい中でしたが、35名の皆様にご参加いただきました。

講演では、映画『ヒロ子の日記～原爆ドーム保存の秘話～』を上映しながら、映画の制作経緯をお話しいただきました。映画の内容は、16歳で白血病のため亡くなった楳山ヒロ子さんの生涯と日記に書かれた思い、また、原爆ドーム保存活動に携わった人々のこと、ドーム保存に莫大な費用がかかること、多くの市民にはつらい記憶の負の遺産であるという理由で保存に難色を示されていたことなどでした。

“『あの痛々しい産業奨励館（原爆ドーム）だけがいつまでも恐る（べき）原爆を世に訴えてくれるだろうか』” （日記の一部から）

この日記を読んで、『原爆の子の像』の建立を発案された河本一郎さんが心を動かされ、紆余曲折を経て保存運動へと繋がりました。今でこそ世界中の人々がこの地を訪れ、1996年に世界遺産登録されましたが、もし取り壊されていたら・・・。

たくさんの人々の思いが詰まったドーム。今回の講演で知ることとなった楳山ヒロ子さんの名前と日記を、これから後世にきちんと伝えていくべきではないでしょうか。核兵器が使用されたらどうなるのか。被爆地広島だからこそ発信すべきことがまだまだたくさんあると思いました。

文化部会 木船裕美

